

3月19日（金） 足立区立第十一中学校第71回卒業式。普通なら体育館で行うところですが、足立区の小中学校はコロナウイルス対策の為に、校庭に椅子を並べて行うことになりました。ベテランの先生方も「校庭での卒業式は初めてだ」「とにかくやるしかない。」と生徒も先生も不安いっぱい迎えた卒業式でした。

しかし当日は、雲一つない快晴。心配された寒さや強風もない、抜けるような青空のもとでの素晴らしい卒業式でした。

今年の卒業生は、合唱コンもなく、三月に教室でクラスメイトと語らう時間もなく、緊張感にあふれる卒業式練習もなく、当日の卒業式も短縮、式後の教室での最後の学活すらありませんでした。「かわいそうだな、、、」

しかし、青空のもと保護者と共に担任のもとに集う卒業生を見ていると「これほど記憶に残る、特別な卒業式はない、、、！」と思えてきました。卒業式自体は毎年行われます。しかし卒業生にとってこの一回の卒業式はオンリーワンなのです。

あらゆる出来事は『一期一会（いちごいちえ）』であると言います。人との出会いが二度と無いのと同じように、毎日くり返してることも、毎年くり返していることも、全く同じ事はありません。

私は学校と自宅の間を自転車で通勤しています（元気がある時や逆に元気がない時は、走ります）。荒川の土手沿いなので気持ち良いだけでなく、毎日楽しみにしていることがあります。朝焼けと夕焼けです。朝焼けと夕焼けは、まさしく一度として同じものではありません。雲の流れ・形そこに光線がどのように反射するか、毎日違うのはもちろん、1分・2分時間が経っただけで色合いや広がりがどんどん変化します。立ち止まってぼーっと見ていると自分の心も変化していきます。

我々の生活も単調な繰り返しのような気がします。しかし同じ事をやっているように見えて、自分の気持ちが少し変わるだけで全く違う体験になるし、実は同じ事など二度と起こらないのです。